

上三川町は町村合併60周年を迎えました!!

昭和30年(1955年)4月29日、上三川町、本郷村、明治村が合併し、現在の「上三川町」が誕生しました。今年度、町村合併60周年を迎える上三川町。その町の姿を様々な角度から、1年間に渡りご紹介していきます。

第5回は、広報600号の歩み(前半)です。広報かみのかわも今号で600号を迎えます。今回はその前半、創刊号から300号までの広報かみのかわを紹介していきます。



創刊号

広報かみのかわは、昭和31年11月、前年の町村合併を受けて創刊されました。今でこそ毎月発行していますが、当時は年1回の発行でした。また、サイズは半紙と同じB4版で両面刷りの形で配布されていました。

内容は、発刊のあいさつから始まり、予算など町の財政や国民健康保険、町勢概要などについて書かれています。なかには「米の配給制度」など時代を感じさせる記事もあります。また、旧字が使われており、今ではあまり使われていない漢字が並んでいます。

当時の世帯数は3,057世帯、人口は19,059人で、1世帯あたりの人数が6.2人の計算になります。平成27年7月1日現在、世帯数は11,123世帯、人口31,302人で、1世帯あたり2.8人ですから、時代が変わるとともに町民の生活様式が変わったことが読み取れます。

昭和31年11月1日 かみのかわ 創刊号

合併関係町村の沿革

上三川町の前身となる上三川町、本郷村、明治村の合併の経緯を詳しく説明しています。

町長の挨拶

町長 小口 隆次

禁獵區の設定

本町体育協会の活動や、秋の全国大会、本年度「大事業!!」などに関するお知らせです。

着々進む 本年度「大事業!!」

明治村中学校校舎の建築、買収の上三川分校の建築など、町政の進捗について報告しています。

変った教育の紹介 委員会制度の紹介

町政運営の新しい体制について説明しています。

上三野先生の政見

町政に対する上野先生の意見を掲載しています。

一人一日に何

食品名	概算消費量(単位)	概算消費額(円)
米	326g	1.78
小麦粉	27g	0.35
大豆	80g	0.24
卵	18g	0.25
牛乳	5.3g	0.70
食塩	53g	0.40
砂糖	40g	0.45
食油	13g	0.21
雑穀	40g	0.78
野菜	5.3g	0.26
果物	5.3g	0.40
肉類	8g	0.27
合計	3,505g	10.1

二：お米の配給制度がかわりました：二

項目	改正前		改正後	
	年令別七段階に別	一人一日365g(一律)	配給日数	内地米
基本配給	(a) 配給日数 10日	内地米 1.5日	(a) 配給日数 10日	内地米 10日
	(b) 配給日数 10日	内地米 7.65日	(b) 配給日数 10日	内地米 7.50日
希望配給	(a) 配給日数 8日	内地米 1.5日	(a) 配給日数 10日	内地米 1.12日
	(b) 配給日数 10日	内地米 8.45日	(b) 配給日数 10日	内地米 8.00日
配給精米品質	七分搗米		の二種類	
	(a) 完全精米		(b) 七分搗米	

土地改良事業決定

本町改良事業の進捗状況と今後の計画について報告しています。

上三川町勢概要

項目	昭和31年	昭和30年	昭和29年
人口	19,059	18,800	18,500
世帯数	3,057	3,000	2,900
人口密度	112.5	110.0	108.0
出生率	18.5	19.0	19.5
死亡率	8.5	9.0	9.5
自然増減率	10.0	10.0	10.0
移住率	0.5	0.5	0.5
転入率	0.5	0.5	0.5
転出率	0.5	0.5	0.5

広報かみのかわの移り変わら

創刊号(昭和31年11月)

第7号(昭和37年6月)

この号から今の広報より一回り小さいB5サイズの冊子形式になりました。



第16号(昭和40年5月)

この号では表紙に大きな写真を使い、ほかのページに比べて文字が少なくレイアウトされています。それまでは表紙に写真を載せても二つの記事という扱いでした。



第65号(昭和46年1月)

この号の表紙は初のカラーで、鬼怒川から見える日の出が表紙を飾っています。ただし、表紙がカラーなのは年の初めである1月だけ、2〜12月は変わらず白黒のままです。



第145号(昭和52年9月)

この号から毎号表紙がカラーになりました。町の様々な景色やイベントの様子などを色鮮やかに見ることができました。



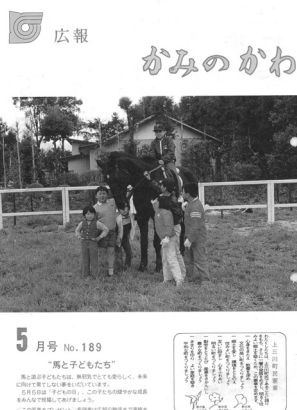
第164号(昭和54年4月)

今号の表紙をご覧いただくと表紙一面に写真を載せ、そこに重ねて「広報かみのかわ」などの文字が載っていますが、同じようなレイアウトがこの号でも使われていました。



第189号(昭和56年5月)

この号から表紙の写真が横長のものになり、表紙の中身も黒1色から2色刷りに変わり、より読みやすくなりました。



第212号(昭和58年4月)

表紙がカラーではなくなり赤と黒の2色刷になりました。再び表紙がカラーになるのは昭和61年の9月からになります。



第300号(平成2年8月)

記念すべき第300号は栃木県を象徴するような夕立、稲妻の写真が表紙を飾りました。



あんな記事こんな記事1

第52号(昭和45年1月)

この号から広報に4コマ漫画が入りました。季節のネタや時代に沿ったネタがあり当時の社会を読み取ることができます。



第85号(昭和47年9月)

左の「川が泣いている!!」という記事。内容は「川を汚さないように」という記事ですが、実は「私がかみのかわ地内を流れている小さな小さな川です」から始まる、川が書いた記事です。



川が泣いている!!

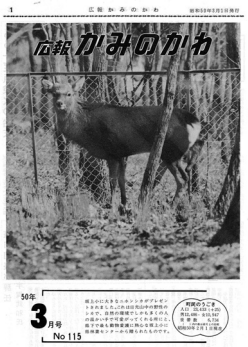
第100号(昭和48年12月)

広報かみのかわ第100号には特集ページが載せられました。100号記念のプレゼントもあつたようです。



第115号(昭和50年3月)

この号の表紙は「ホンシカ。なぜシカが表紙を飾ったか」というと、県の林業センターから、動物愛護に熱心な坂上小学にこのシカが贈られたからだそうです。



合併20周年特集号(昭和50年5月)

20周年の記念に6ページの特集号が作られました。表紙は町の航空写真で、内容は町長議長のあいさつに始まり、かみのかわ音頭の振り付けや楽譜、20年間の歩みが写真とともに載っています。



第134号(昭和51年11月)

皆さんご存じかと思えます「町の木・町の花・町の鳥」。これが制定されたのは昭和51年の11月でした。同年6月の広報にて募集が行われ、応募者総数1、103名の結果、町のシンボルが、「町の木…いちよう」「町の花…ゆづがわ」「町の鳥…しらさぎ」に決まりました。



町の木・花・鳥の募集(昭和51年6月)



町の木・花・鳥の決定(昭和51年11月)



あんな記事こんな記事②

第161号(昭和54年1月)



この号の表紙は当時小学5年生の児童達の写真で上三川町が形づくられています。未来の上三川を皆で作っていくという思いが感じられます。

第205号(昭和57年9月)

当時の「町の話題」。今でも「町の話題」のページはありますが、この当時の「町の話題」は、写真の大きさが記事の配置を変えて作っていました。



第213号(昭和58年5月)

この頃は、町民の方からのお便りなどで構成された企画がありました。例えば、「私のふるさと」は、上三川に住んでいる町民が自分の生まれ故郷を紹介するという企画で、北海道から福岡、熊本などいろいろな人が自分のふるさとを紹介してくれました。



また、広報かみのかわでは町民に親しみやすい広報を目指して俳句や川柳、詠暮や詰将棋などを載せていたこともありました。

☆恋恋恋☆
6月の土曜開庁日(休み)は10日と24日です。

有段を目指して

俳句

詠暮

詰将棋

第217号(昭和58年9月)

この号はなんと日本広報協会主催のコンクールで第1位入選に輝きました。特集の「コミュニティを考える」という町民とともに「コミュニティを考える企画」が高く評価されたとのこと。



合併30周年記念号(昭和60年12月)

合併30周年の記念に4ページの記念号が作られました。内容は記念式典や町民まつりの様子が掲載されています。



第264号(昭和62年8月)

この頃、「民話の散歩道」という上三川町の伝説や民話の企画がありました。これは今の広報の「郷土かみのかわ」の歴史文化財に引き継がれています。

